

元日本代表の北澤さんが指導



子どもたちを見守る北澤さん(右)

スポーツキャンプ地としてアピールし、キャンプ誘致を推進するため沖縄県などが取り組んでいる「スポキャンオキナワ」事業の一環で、サッカー教室が1月11日に西原町民陸上競技場で行われました。この日はJリーグや日本代表で活躍した北澤豪さんが講師を務め、西原町や宜野湾市などで活動する小学生チームの選手約40名を指導しました。シュートや試合形式の練習を見守った北澤さんは「人に流されず、自分で目標を決めて練習し、強い気持ちで努力を重ねてください。次に会うときは、もっとうまくなった姿を見せてほしい」と、参加した児童を激励しました。



まちの

話題



「どならない子育て」を学び、子どもと上手にコミュニケーションを

DV対策について考える講演会が、12月6日にさわふじ未来ホールで開催されました。

講演会では「どならない子育て～それってしつけ or 虐待?子育てが楽になる法則～」というテーマで、児童相談所などで子育てや児童福祉に携わった砂川純子さんがコモンセンスペアレンティングを活用した子育てについて講話しました。

コモンセンスペアレンティングとは、虐待する親の更生のために開発されたプログラムで、砂川さんはそのトレーナーの資格を持っています。砂川さんは親がどなったり虐待に至る原因を「子どもに愛情を抱くからこそ、頭がカッとなる」と指摘。「自分自身をコントロールする方法を知ることが大事。暖かいハートと冷めた頭で子どもに接する方法を学んでほしい」と呼びかけました。

また「よい行動や結果はしっかりほめる一方、悪い行動に対して罰を与えるのではなく、子どもが反省するために気持ちの余裕を与えること。子どもとのコミュニケーションを磨き、目を見合わせて話をしよう」と参加者にアドバイスしました。



与那嶺マルコス・マサノリさんが西原町を訪問

1月2日にテレビ放映された民謡番組「第9回新春!島唄の祭典」に出演するためブラジルから来沖した与那嶺マルコス・マサノリさん(写真右から2番目)が、12月18日に西原町役場を訪れました。

与那嶺さんは、昭和10年にブラジルへ移住した西原町字幸地出身の曾祖父の子孫で、県系4世にあたります。今回は琉球民謡協会ブラジル支部から派遣され、番組に出演。歌三線を披露しました。沖縄に来たのは初めてで、テレビ出演は「すごくチムドンドンした」と笑顔で振り返りました。上間明町長は「ますます腕を磨いて、将来は教える立場で三線文化を広めてほしい」と激励しました。



山城さん、西原町母子寡婦福祉会が県表彰を受彰



山城さん(中央左)と呉屋会長(中央右)

11月16日に開催された第45回沖縄県母子寡婦福祉大会で、山城敬子さんが特別功労表彰を、西原町母子寡婦福祉会(呉屋定子会長)が優良母子寡婦福祉会の表彰を受けました。この表彰は、母子寡婦福祉の増進に貢献した人などに対し、(公社)沖縄県母子寡婦福祉連合会が表彰するものです。

字小橋川で琉舞道場を開いている山城さんは、チャリティーイベントなどで琉舞を披露するなどの協力を長年続け、町母子寡婦福祉会は会員の激励のため表彰制度を導入するなどの独自の取組みが評価されました。

平成27年西原町成人式を挙行

新成人の門出を祝福する「平成27年西原町成人式」が、1月11日にさわふじ未来ホールで開催されました。西原町では今年新たに男性が304名、女性が236名の計540名(町在住者)が新成人として大人の仲間入りをしました。

式典では、家族や恩師など多くの方が見守りました。上間明町長は式辞で「愛情を注ぎ、守り育ててくれた家族への感謝の気持ちを大切に、自分の将来像をしっかりと掲げ、高い志を持って邁進してほしい」と新成人を激励し、「若者が夢と誇りを持てるまちづくりに取り組みたい」とメッセージを送りました。西原町青年協議会の屋嘉部景介会長が「関わる心の関心、感じる心の感心、歓ぶ心の歓心。3つの『かんしん』を抱き、これからの世界を築いてほしい」と祝辞を述べました。また新成人を代表して、伊礼ありさんと

宮城梓さんが決意表明を行いました。

【伊礼ありさん】故郷を離れて生活して、友人と過ごした青春の日々を思い出す。たくさんの恩師との出会いが宝物と感じている。改めて故郷のよさに気が付き、親の偉大さとありがたみが身に染みている。支えてくれたみなさんに感謝し、これから出会う人々との関わりを大切に精進したい。

【宮城梓さん】人に迷惑をかけて後悔が残っているが、両親は見捨てずにずっと支えてくれて、兄弟とも話をした。一番に感謝の気持ちを伝えたいのは家族です。いつか自慢の息子だと言って言われるような人になりたい。不公平なことや環境で人生が左右されることがあるかもしれないが、時間だけは平等なので、時間を価値あるものにして、立派な大人になりたい。



伊礼ありさん



宮城梓さん



ちゃーすが!子どもたちの学力向上を考える

対話形式で西原の子どもたちの教育について考える家庭教育ダイアログ「ちゃーすが!西原町の子どもたちの学力～西原町の大人が本気で本音のトークセッション」が、12月12日にさわふじ未来ホールで開催されました。イベントには保護者や教師、地域住民などが登壇し、今後の学力や生活行動の向上を目指して話し合いました。

西原南小学校の久場明子校長は「家庭での生活環境が心配になる子がいる。すべての子どもたちが規則正しい生活、パ

ランスのいい食事が食べられる環境を、親も整えてほしい」と訴えました。西原東中学校教諭の新本穰さんは「中学校でも小学校と同様の課題がある」と語り、西原小学校PTA会長の前田光智さんは「子どもの生活習慣に関して悩んでいる声が多い」と、日々感じている課題を伝えました。

琉球大学准教授の笹澤吉明さんは「食事や睡眠などの生活習慣のデータは改善傾向だが、沖縄はまだまだ全国より低水準」と報告し、睡眠が足りていない子どもは学力が低い、携帯電話の使用時間が長いほど勉強時間が少なくなるなどの問題点を指摘。規則正しい生活習慣など、家庭でのタイムマネジメントの重要性を説きました。教員の人事交流で秋田から西原小に赴任している藤嶋聖人さんは「沖縄に来て、夜遅い時間でも子どもが外にいることに衝撃を受けた。家庭での生活環境づくりが必要と感じた」と語るとともに、子どもたちが自分で課題を見つけて学習できるよう取り組んでいると説明しました。西原町自治会長会長の新田宗信さんは「地域の子どもの地域で育てていきたい」と述べ、それぞれの立場で今後取り組むべきことなどを考えました。



サポートセンターはばたきでも成人式!

(福)西原町社会福祉協議会が運営している通所作業施設「サポートセンターはばたき」の主催する「平成27年はばたき成人式」が、1月12日に西原町社会福祉センターで開催されました。式では、成人を迎えた宮城佳菜子さんの節目を、利用者や家族、関係者が祝いました。宮城さんは「私のためにありがとうございます。これからもがんばります」と力強く抱負を述べ、母親の宮城百合子さんは「20年間病気もせず、元気に育ってくれた。成人を迎えられたのはみなさんの協力があったからこそ」と、目元を潤ませながらあいさつしました。



花束を受け取る宮城さん(右)